

令和7年度
鹿屋市市民意識調査（アンケート）
結果報告書

令和8年3月
鹿屋市

目 次

	ページ
1 調査の概要	
（1）目的	1
（2）抽出方法	1
（3）対象者数	1
（4）調査期間	1
（5）回答者数	1
（6）アンケートの信頼性	1
2 回答者の状況	
（1）性別	2
（2）年齢	2
（3）家族構成	2
（4）職業	2
（5）住まい	2
（6）居住年数	2
3 鹿屋市の住みやすさについて	
（1）住みやすさについて	3
（2）住みやすい理由	4～5
（3）住みにくい理由	6～7
（4）鹿屋市に住み続けたい人と転出したい人	8
（5）鹿屋市に魅力や愛着を感じるどころ	9
4 鹿屋市が実施している施策の重要度と満足度について	
（1）基本施策毎の重要度	10
（2）基本施策毎の満足度	11
（3）重要度と満足度の相関図による分析	12～15
5 総合計画に記載されているKPIなどについて	
（1）人権意識について	16
（2）男女平等意識について	16
（3）スポーツ実施率	17
（4）文化活動実施率	17
（5）地域活動の参加率	18
（6）いまの生活に幸福を感じている市民の割合	18
（7）防災情報の入手手段	19
（8）自然災害への備え	19

1 調査の概要

(1) 目的

統計資料等から把握できない内容を聞き取るとともに、第3次鹿屋市総合計画の各施策とその施策に基づき進めている取組の重要度と満足度などを調査し、その結果を分析し、今後の市政運営に生かすもの。

また、第3次鹿屋市総合計画に記載されているKPIの検証を行うもの。

(2) 抽出方法

16歳以上の市民の中から年齢層毎に一定数無作為に抽出

(3) 対象者数

2,500人

(4) 調査期間

令和7年11月11日～12月12日

(5) 回答者数

854人（回答率 34.2%）

(6) アンケートの信頼性

本来、アンケート調査を行う場合、その回答誤差をなくすためには、全母集団（全被験者）を対象とすることが理想であるが、母集団（被験者）の数が膨大な場合、効率的ではないため、適当なサンプル数（人数）を選んで行う。

その場合、アンケート回答者数と回答誤差の関係は、当然、回答者数が少ないと誤差が大きく、回答者数が多いと誤差は小さくなるが、その関係は一定でなく、ある一定の数を超えると、回答者数を大幅に増やしても回答誤差はほとんど変わらない。

統計学的には、この「一定の数」は標本誤差が3～5%以内であればよいとされている。標本誤差3～5%となるためには、385人から1,067人の回答者数があればよく、今回のアンケートの回答者数は854人であるので、本調査は信頼性が確保されていると言える。

$n = 1.96^2 \times \frac{p(1-p)}{d^2}$	$1.96^2 \times \frac{0.5(1-0.5)}{0.05^2} = \underline{384.2}$
n：回答者数	$1.96^2 \times \frac{0.5(1-0.5)}{0.03^2} = \underline{1067.1}$
p：回答比率（50%で精度最大）	
d：標本誤差	※ 854人 の時の標本誤差 = 3.35%

2 回答者の状況

(1) 性別

	回答者数(人)	割合(%)
男性	347	40.6
女性	491	57.5
回答しない	16	1.9

(2) 年齢

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
回答者数(人)	43	98	112	142	154	164	137
割合(%)	5.1	11.5	13.2	16.7	18.1	19.3	16.1

(3) 家族構成

	1人世帯	1世代世帯 (夫婦)	2世代世帯 (親・子)	3世代世帯 (親・子・孫)	その他の世帯
回答者数(人)	152	272	394	17	14
割合(%)	17.9	32.0	46.4	2.0	1.6

(4) 職業

職業	回答者数(人)	割合(%)
農林水産業従事者	32	3.8
自営業(商工業、サービス業、会社役員)	62	7.3
会社員(正社員、公務員など)	317	37.3
非正規雇用者(アルバイト・パートタイム等を含む)	169	19.9
家事専業(主婦、主夫など)	63	7.4
学生	52	6.1
無職	130	15.3
その他	26	3.1

(5) 住まい

地区	回答者数(人)	割合(%)	地区	回答者数(人)	割合(%)
鹿屋・市街地中心地区	63	7.4	鹿屋・大始良地区	55	6.4
鹿屋・寿地区	268	31.4	鹿屋・高須浜田地区	6	0.7
鹿屋・西原地区	169	19.8	鹿屋・古江花岡地区	26	3.0
鹿屋・高隈地区	8	0.9	輝北地区	23	2.7
鹿屋・東原祓川地区	37	4.3	串良地区	72	8.4
鹿屋・田崎地区	73	8.6	吾平地区	53	6.2

(6) 居住年数

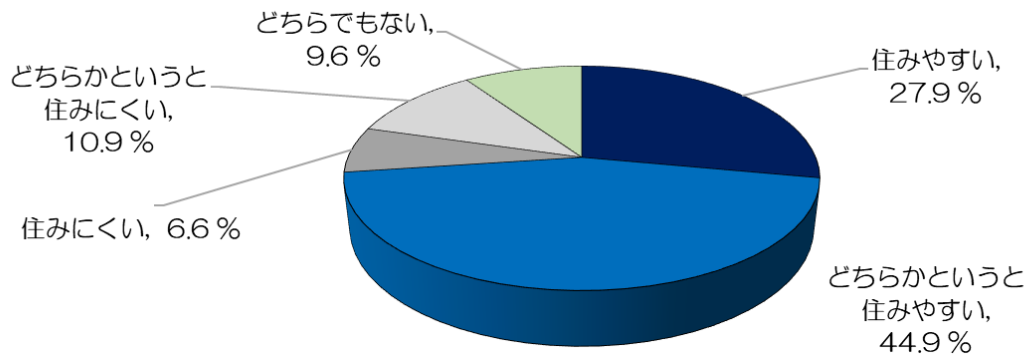
	5年未満	5年～9年	10年～19年	20年以上
回答者数(人)	114	50	169	520
割合(%)	13.4	5.9	19.8	61.0

※各設問の回答者数の合計は未回答もあるため、回答者総数と一致しないことがある。

3 鹿屋市の住みやすさについて

(1) 住みやすさについて

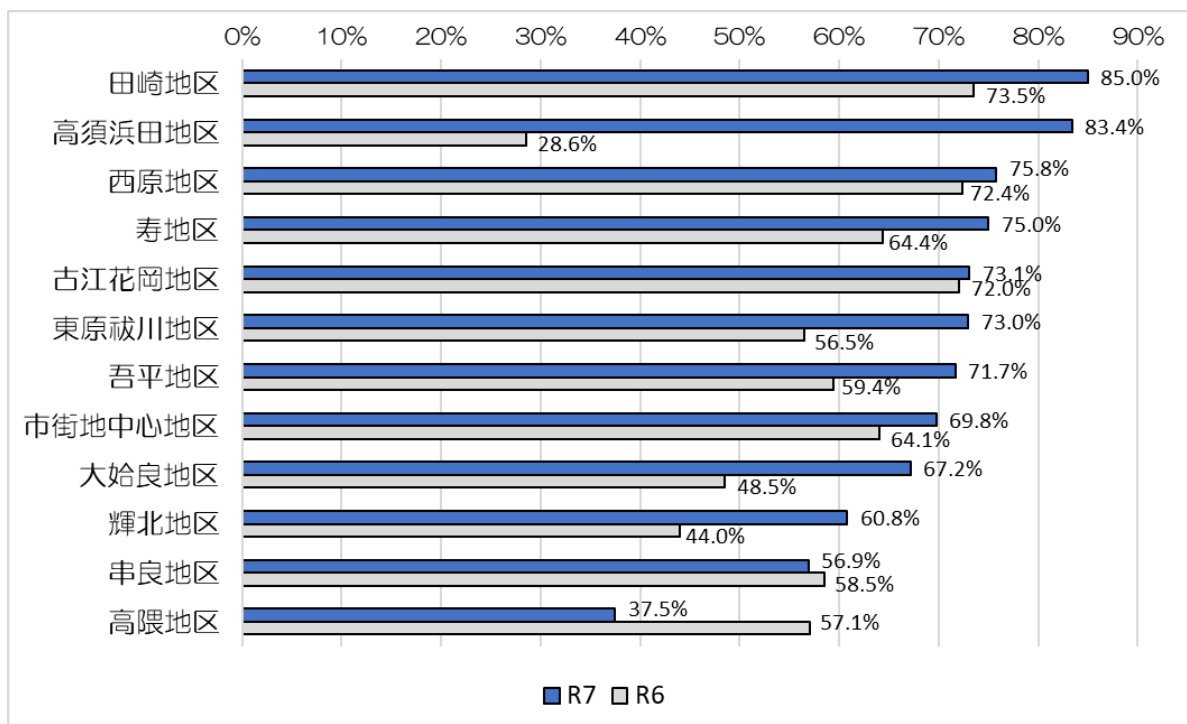
問7 あなたは鹿屋市にお住まいになってどのように感じていますか



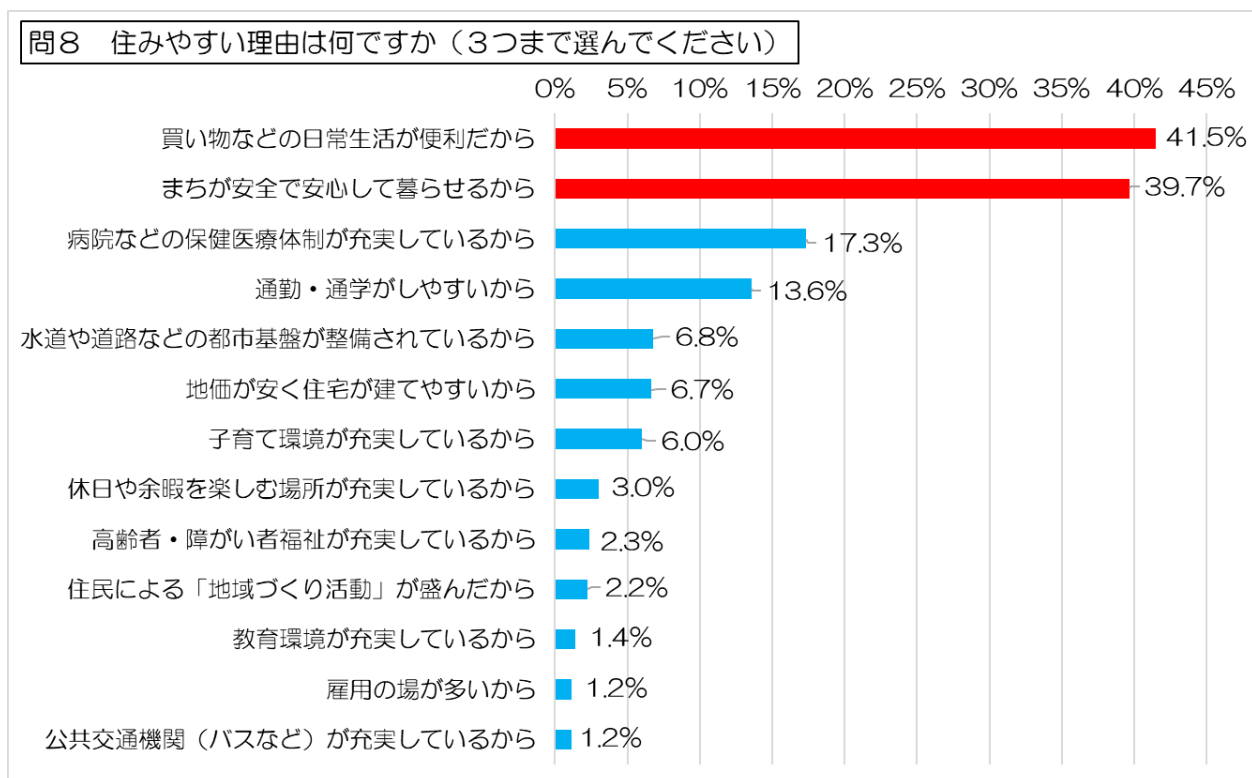
	R7		R6
	回答者数 (人)	割合 (%)	割合 (%)
住みやすい	237	27.9	23.8
どちらかという住みやすい	382	44.9	41.0
住みにくい	56	6.6	6.1
どちらかという住みにくい	93	10.9	14.7
どちらでもない	82	9.6	14.4

◆ 「住みやすい」「どちらかという住みやすい」と回答した人の割合が72.8%であった。「住みにくい」「どちらかという住みにくい」と回答した人の割合は17.5%であった。

【居住地別の住みやすさ】



(2) 住みやすい理由



- ◆ 「買い物などの日常生活が便利だから」「まちが安全で安心して暮らせるから」と回答した方の割合が他と比べて突出している。

● 前回 R6 との比較

順位	項目	R7		R6	
		割合	順位 前年比較	割合	順位
1	買い物などの日常生活が便利だから	41.5%	→	35.6%	1
2	まちが安全で安心して暮らせるから	39.7%	→	34.6%	2
3	病院などの保健医療体制が充実しているから	17.3%	→	17.2%	3
4	通勤・通学がしやすいから	13.6%	→	10.3%	4
5	水道や道路などの都市基盤が整備されているから	6.8%	→	9.8%	5
6	地価が安く住宅が建てやすいから	6.7%	→	5.0%	6
7	子育て環境が充実しているから	6.0%	→	3.0%	7
8	休日や余暇を楽しむ場所が充実しているから	3.0%	↗	2.1%	10
9	高齢者・障がい者福祉が充実しているから	2.3%	↘	2.6%	8
10	住民による「地域づくり活動」が盛んだから	2.2%	↘	2.6%	8
11	教育環境が充実しているから	1.4%	→	1.1%	11
12	公共交通機関（バスなど）が充実しているから	1.2%	→	0.8%	12
13	雇用の場が多いから	1.2%	→	0.0%	13

- ◆ 「休日や余暇を楽しむ場所が充実しているから」がランクアップし、「高齢者・障がい者福祉が充実しているから」「住民による地域づくり活動が盛んだから」などがランクダウンした。

※居住地別の「住みやすい理由」（上位3つ）

中心市街地

- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・通勤・通学がしやすいから

寿地区

- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・病院などの保健医療体制が充実しているから

西原地区

- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・病院などの保健医療体制が充実しているから

高隈地区

- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・住民による「地域づくり活動」が盛んだから

東原・祓川地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・病院などの保健医療体制が充実しているから

田崎地区

- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・通勤・通学がしやすいから

大始良地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・通勤・通学がしやすいから

高須・浜田地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・水道や道路などの都市基盤が整備されているから
- ・地価が安く住宅が建てやすいから

古江・花岡地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・病院などの保健医療体制が充実しているから

輝北地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・高齢者・障がい者福祉が充実しているから
- ・子育て環境が充実しているから

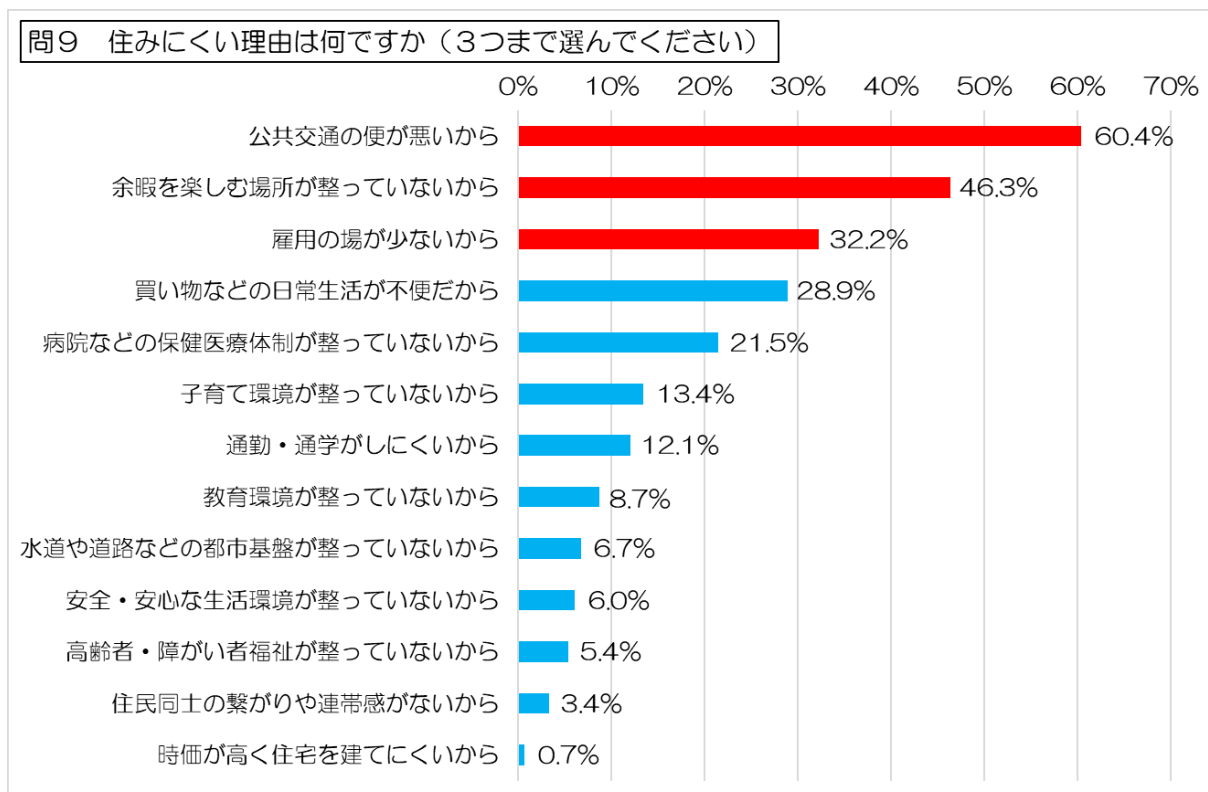
串良地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・通勤・通学がしやすいから

吾平地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・通勤・通学がしやすいから

(3) 住みにくい理由



- ◆ 「公共交通の便が悪いから」「余暇を楽しむ場所が整っていないから」「雇用の場が少ないから」と回答した方の割合が高くなっている。

【主な自由意見】

（公共交通の便が悪いから）

- 空港や中央駅へのアクセスに時間がかかる。（20歳代）
- 宴会等がある際、街に出づらいうし帰宅も大変。（30歳代）
- 公共交通機関が少なく、将来、免許返納となった場合に不安が大きい。（40歳代）
- 車がないと何もできない。免許を返納するときは引っ越しするしかない。（60歳代）

（余暇を楽しむ場所が整っていないから）

- 若者向けのコンテンツが少なく、休日は鹿児島市内、始良の方が楽しい。（20歳代）
- 買い物をしたくても店がない。結局、ネットか鹿児島市内まで行かなければならず、不便。（40歳代）
- 職場の若い同僚は、鹿屋に楽しみが無いと嘆いている。（50歳代）

（雇用の場が少ないから）

- 正社員の給料が鹿児島市内に対して少し低い気がする。雇用も少ない。働きたいのに職の選択が少ない状況を改善してほしい。（20歳代）
- 介護や看護等の仕事はあるが、他が少ない。（30歳代）
- 雇用の場が少なく、県外にでるしかない。（40歳代）

※居住地別の「住みにくい理由」（上位3つ）

中心市街地

- ・余暇を楽しむ場所が整っていないから
- ・公共交通の便が悪いから
- ・雇用の場が少ないから

寿地区

- ・公共交通の便が悪いから
- ・余暇を楽しむ場所が整っていないから
- ・雇用の場が少ないから

西原地区

- ・公共交通の便が悪いから
- ・余暇を楽しむ場所が整っていないから
- ・買い物などの日常生活が不便だから

高隈地区

- ・買い物などの日常生活が不便だから
- ・公共交通の便が悪いから
- ・通勤・通学がしにくいから

東原・祓川地区

- ・公共交通の便が悪いから
- ・余暇を楽しむ場所が整っていないから
- ・買い物などの日常生活が不便だから

田崎地区

- ・公共交通の便が悪いから
- ・余暇を楽しむ場所が整っていないから
- ・雇用の場が少ないから

大始良地区

- ・公共交通の便が悪いから
- ・買い物などの日常生活が不便だから
- ・余暇を楽しむ場所が整っていないから

古江・花岡地区

- ・公共交通の便が悪いから
- ・雇用の場が少ないから
- ・買い物などの日常生活が不便だから

輝北地区

- ・病院などの保健医療体制が整っていないから
- ・買い物などの日常生活が不便だから
- ・雇用の場が少ないから

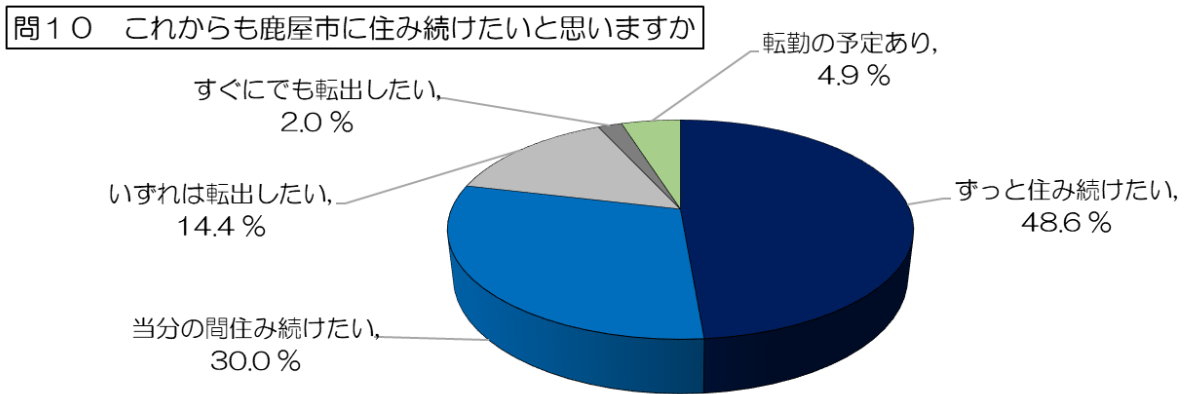
串良地区

- ・公共交通の便が悪いから
- ・通勤・通学がしにくいから
- ・雇用の場が少ないから

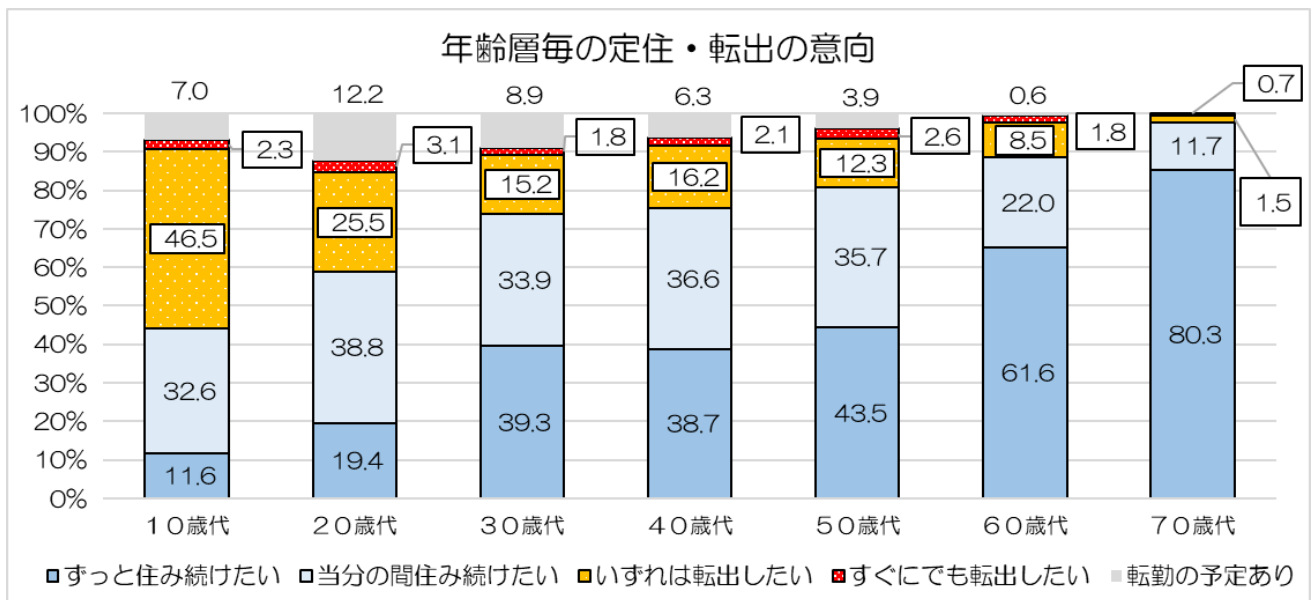
吾平地区

- ・公共交通の便が悪いから
- ・買い物などの日常生活が不便だから
- ・雇用の場が少ないから

(4) 鹿屋市に住み続けたい人と転出したい人



◆ 「ずっと住み続けたい」「当分の間住み続けたい」と回答した人の割合78.6%であった。「すぐにでも転出したい」「いずれは転出したい」と回答した人の割合は16.4%であった。



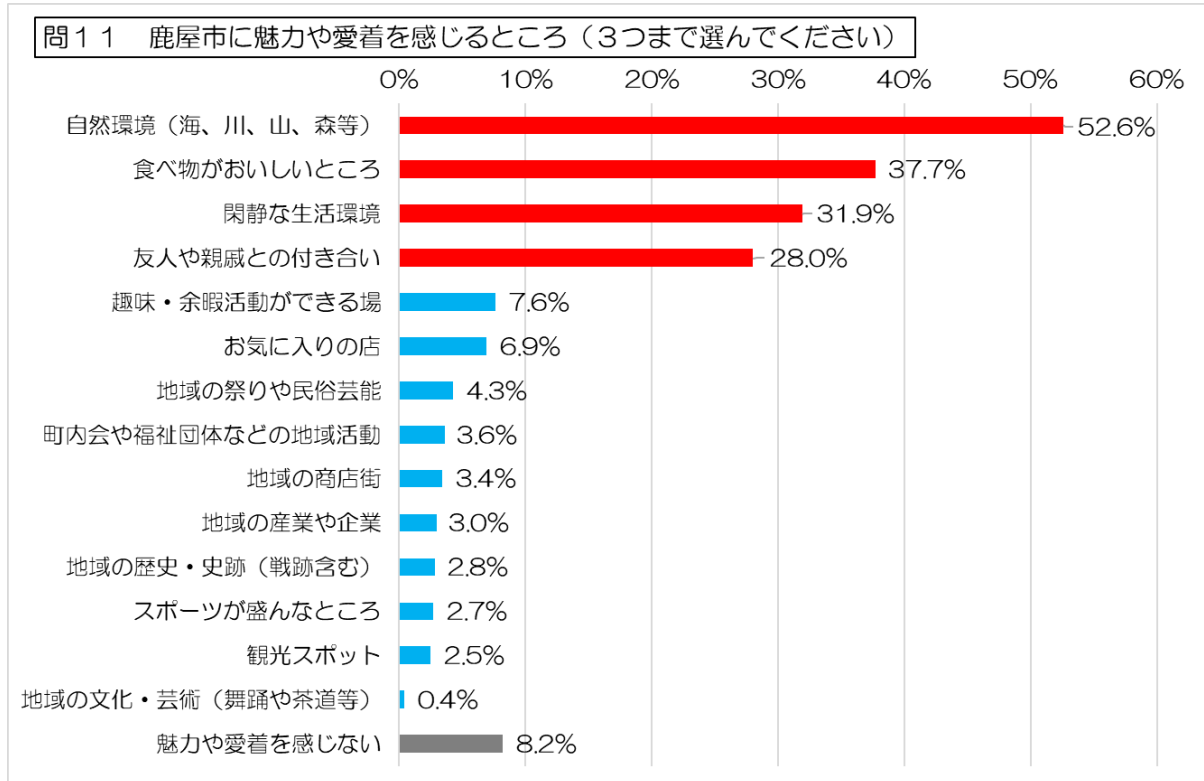
◆ 高齢になるほど、「ずっと住み続けたい」「当分の間住み続けたい」と回答した人の割合が高い。一方、若年層ほど、「いずれは転出したい」「すぐにでも転出したい」と回答した人の割合が高い。

【主な自由意見】

(転出したい方の意見)

- 進学、就職等でいろいろな経験をしたいため。親がいずれ帰ってきてほしいと思う状況になったら帰ってくる可能性大。(10歳代)
- 自分が求める環境(人、仕事、プライベート、成長)が少ない。転出して多くのもの、価値観に触れたいから。(20歳代)
- 環境がアップデートされず昔のままだから。福利厚生も良い企業が少ない。(30歳代)
- 鹿屋市の教育環境が今の子ども達の学力低下に起因していると思う。小さい頃からの読書環境は家庭や学校だけでなく市全体で整えて行くべきだと考える。(40歳代)

(5) 鹿屋市に魅力や愛着を感じるどころ



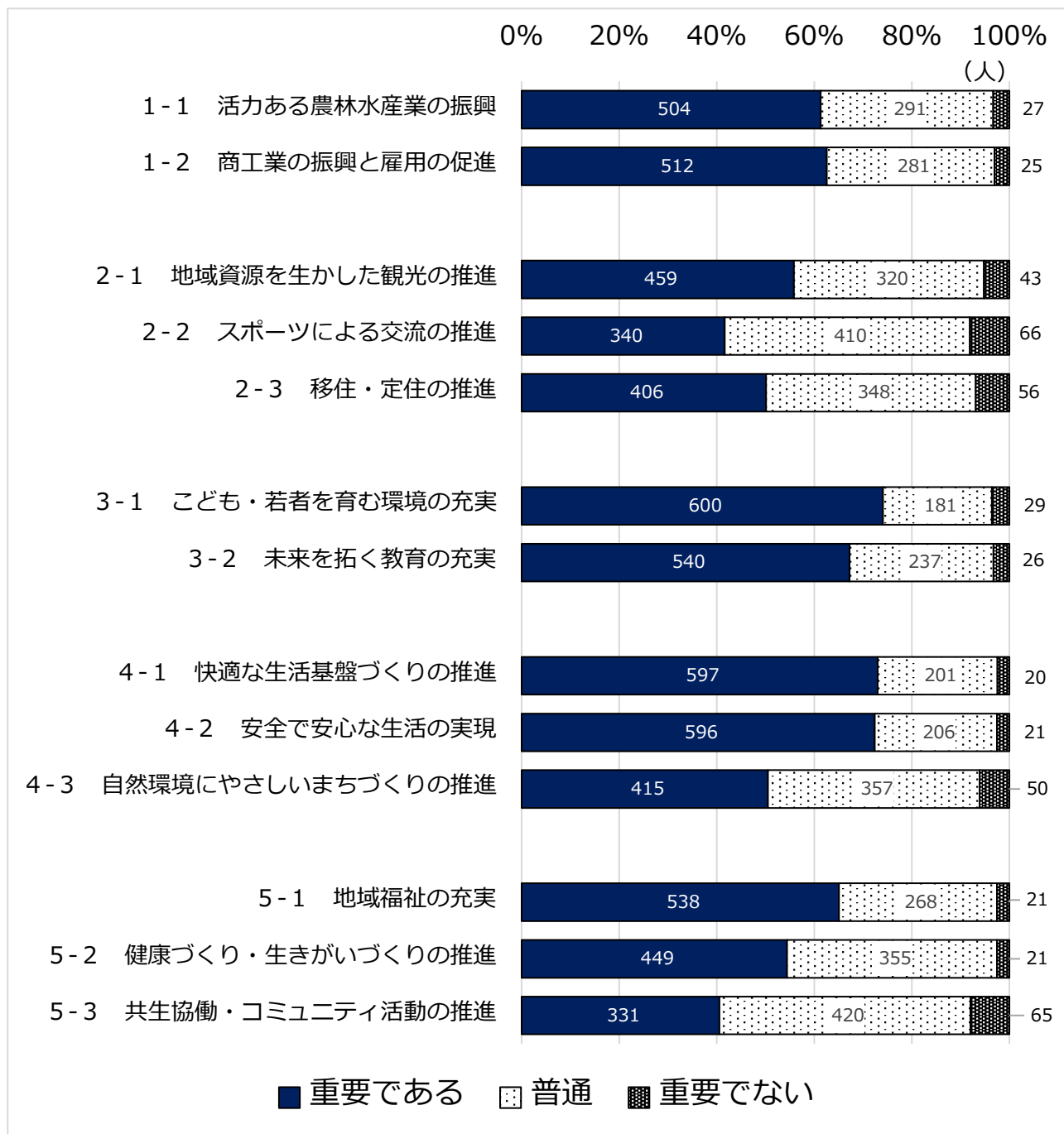
- ◆ 鹿屋市に魅力や愛着を感じている人の割合は、91.8%であった。「自然環境（海、川、山、森等）」「食べ物がおいしいところ」「閑静な生活環境」「友人や親戚との付き合い」の割合が他と比べて突出している。

【主な自由意見】

- カンパチや黒牛、黒豚などの産業が有名なことに誇りを持てる。（10歳代）
- 自然環境が素晴らしい。海や川、森などへのアクセスが簡単にできる。（20歳代）
- 歴史や史跡もたくさんあり、整備もされているので、子育てが落ち着いて時間に余裕ができたタイミングで史跡巡りを楽しんでいます。特産品や特産品を使った料理なども満足しています。（30歳代）
- 牛・豚・鶏・野菜や海産物も豊富でおいしい。ただ、それを買える場所や食べられるお店が少ないと感じる。もったいない、頑張って欲しい。高隈山やたくさんの滝がみられるし、バラ園や吾平山陵なども素晴らしい場所だと思います。（40歳代）
- 伝統ある地域行事があり、町内会活動が盛んなところ。県外から嫁にきたので、魚、肉がととてもおいしい。落花生、唐芋特産の物を使った料理（郷土）はとても珍しくおいしい。（50歳代）
- 住環境が良くて、家庭菜園をしながら趣味の園芸が出来て、充実した生活が出来ている。地域の町内会も道路清掃作業等に年2回従事して、きれいに通学路が整備され、街づくりに活動している。（60歳代）
- 近くに親戚、姉妹、友人等が多く、静かで農業ができる環境も良く、余暇でも友人たちとグランドゴルフを楽しんでいる。（70歳代）

4 鹿屋市が実施している施策の重要度と満足度について

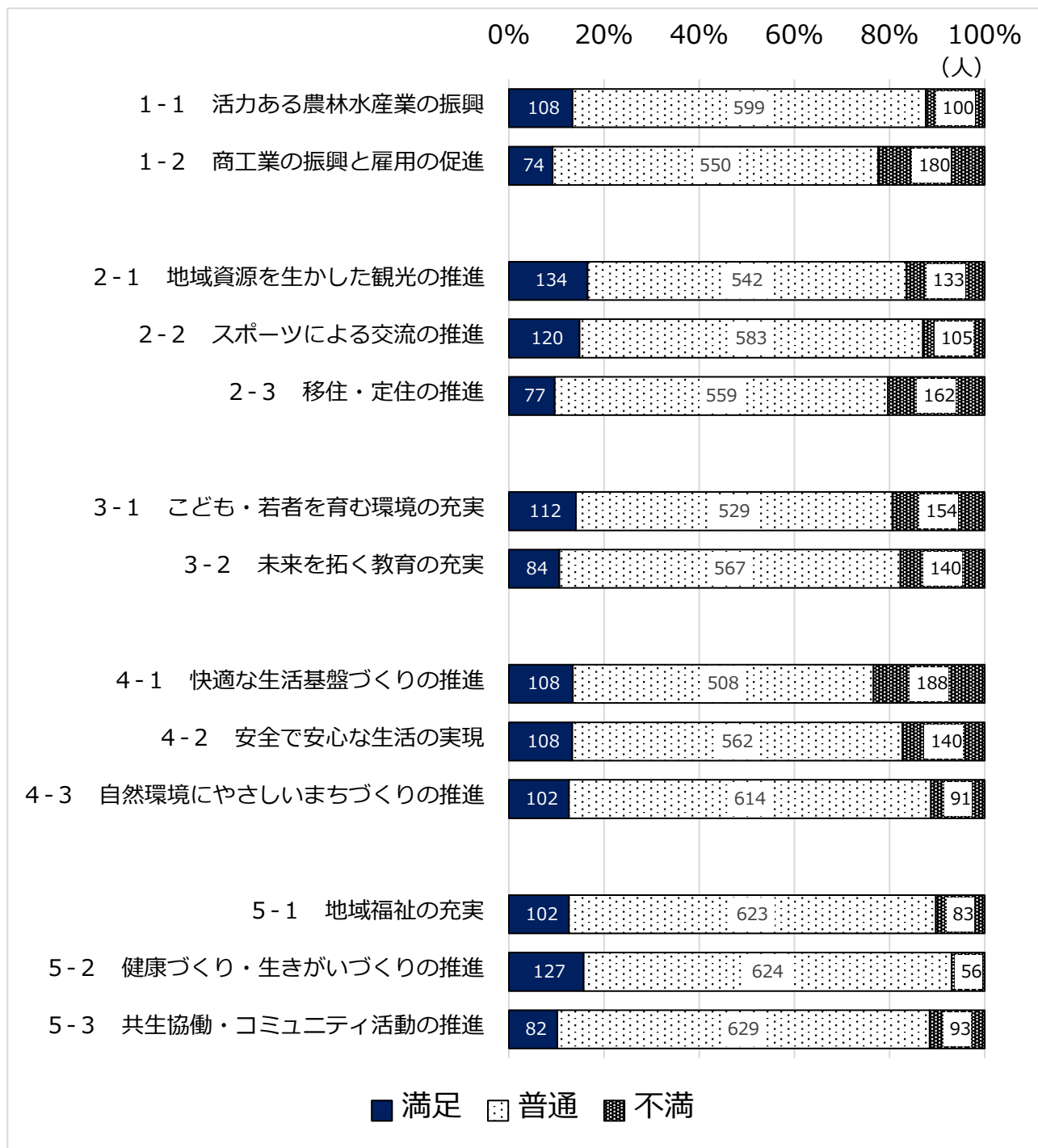
(1) 基本施策毎の重要度



◆ 基本施策毎の重要度について「重要である」と答えた方が最も多かった施策は、「子ども・若者を育む環境の充実」で、次いで「快適な生活基盤づくりの推進」「安全で安心な生活の実現」「未来を拓く教育の充実」「地域福祉の充実」の順となっている。

一方で、「重要でない」と答えた方が最も多かった施策は、「スポーツによる交流の推進」「共生協働・コミュニティ活動の推進」「移住・定住の推進」の順となっている。

(2) 基本施策毎の満足度



◆ 基本施策毎の満足度について「満足」と答えた方が最も多かった施策は、「地域資源を生かした観光の推進」で、次いで「健康づくり・生きがいくりの推進」「スポーツによる交流の推進」「こども・若者を育む環境の充実」の順となっている。

一方で、「不満」と答えた方が最も多かった施策は、「快適な生活基盤づくりの推進」「商工業の振興と雇用の促進」「移住・定住の推進」「こども・若者を育む環境の充実」の順となっている。

(3) 重要度と満足度の相関図による分析

<全体分析>

鹿屋市総合計画の13の施策について、市民の重要度と満足度の点数化をもとに、重要度と満足度の位置関係による評価分析（ポートフォリオ分析）を行いました。

点数化は、「重要である」に5点、「普通」に3点、「重要でない」に0点、「満足」に5点、「普通」に3点、「不満」に0点を当てはめ、加重平均にて算出しました。

A. 重要度が高く、満足度が低い

まちづくりにおける重要度が高いが、満足度が相対的に低く、施策の重点化や抜本的な見直しなども含め満足度を高める必要のある領域。

B. 重要度、満足度ともに高い

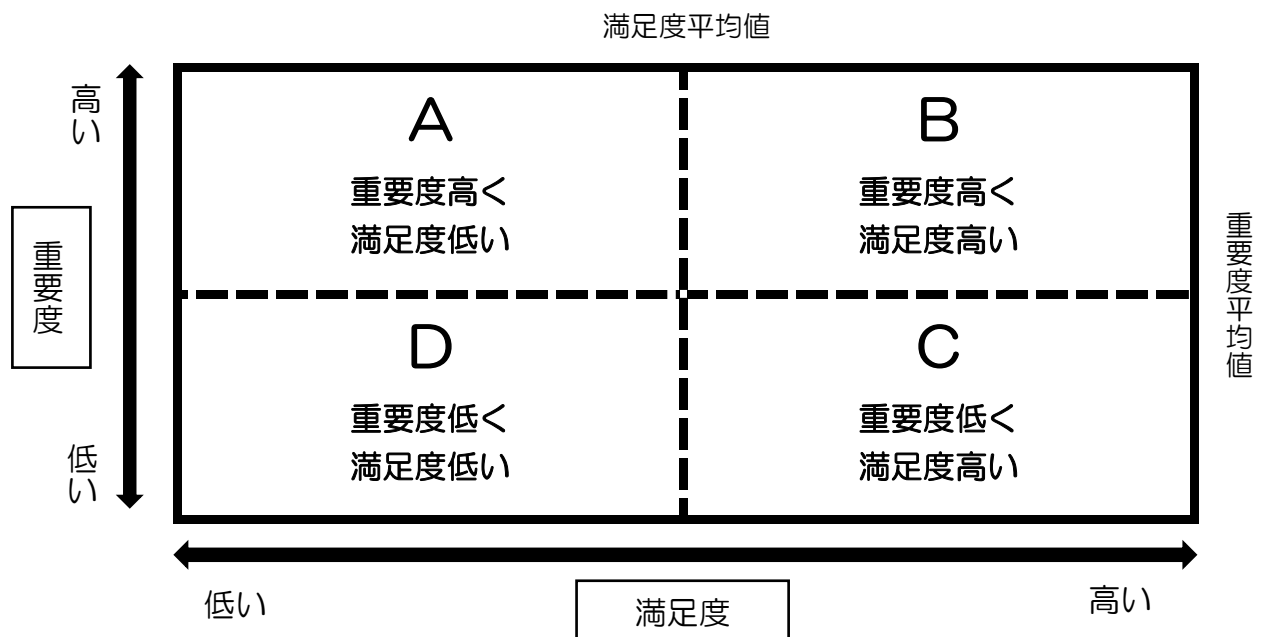
まちづくりにおける重要度も満足度も高く、現時点での満足度の水準を維持していくとともに、費用対効果を高めるための改善が必要な領域。

C. 重要度が低く、満足度が高い

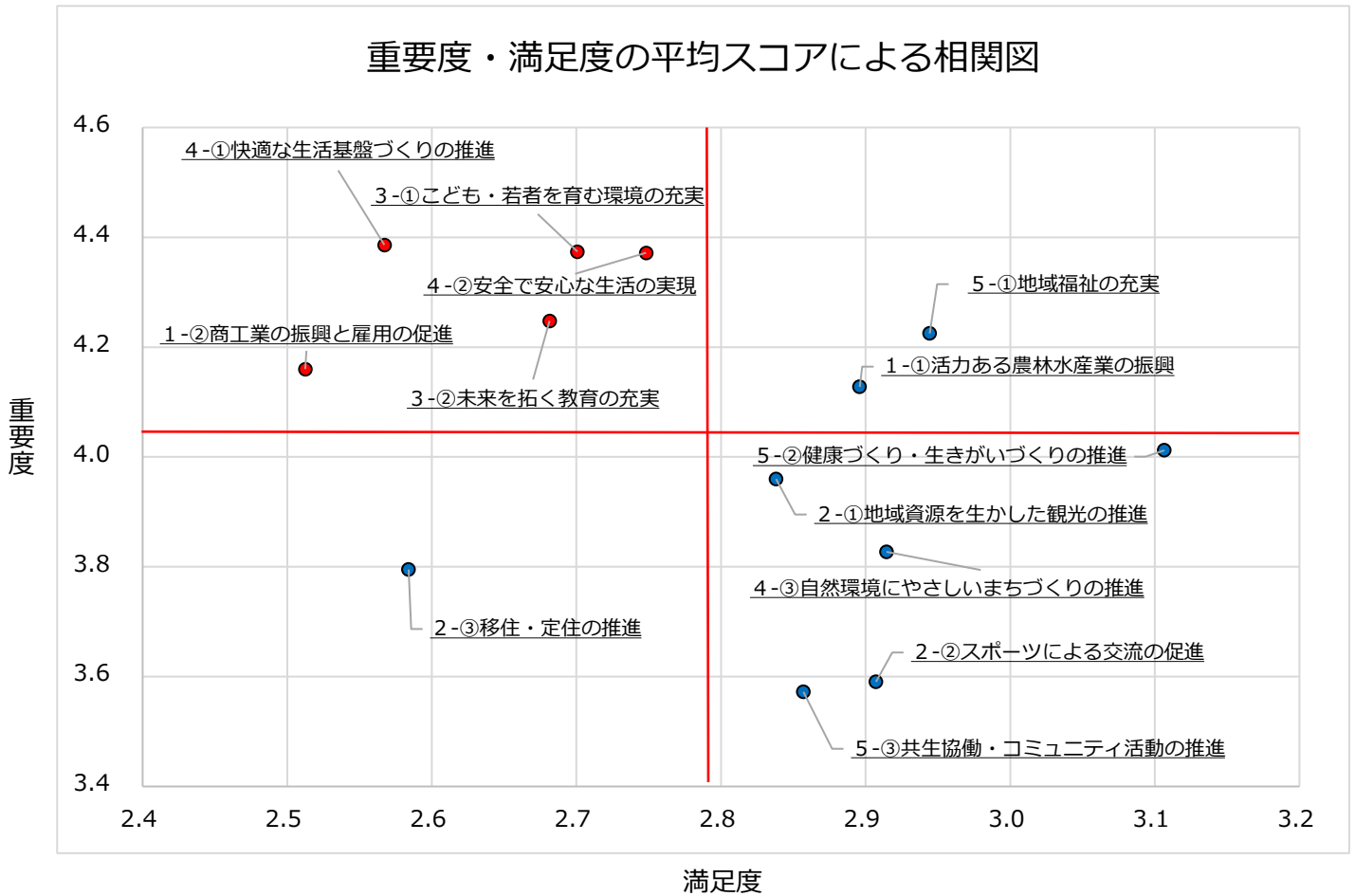
まちづくりにおける重要度は低いものの満足度が高く、満足度の水準を維持していくか、あるいは施策のあり方を含めて見直すべき必要のある領域。

D. 重要度、満足度ともに低い

まちづくりにおける重要度も満足度も低く、施策の目的やニーズを再確認するとともに、施策のあり方や進め方そのものをあらためて見直す必要のある領域。



<評価分析>



	1-①	1-②	2-①	2-②	2-③	3-①	3-②	4-①	4-②	4-③	5-①	5-②	5-③	平均
満足度	2.90	2.51	2.84	2.91	2.58	2.70	2.68	2.57	2.75	2.91	2.94	3.11	2.86	2.79
重要度	4.13	4.16	3.96	3.59	3.80	4.37	4.25	4.39	4.37	3.83	4.22	4.01	3.57	4.05

- ◆ 重要度と満足度がともに高い施策は、「活力ある農林水産業の振興」「地域福祉の充実」となっている。
- ◆ 重要度が高く、満足度が低い施策は、「商工業の振興と雇用の促進」「子ども・若者を育む環境の充実」「未来を拓く教育の充実」「快適な生活基盤づくりの推進」「安全で安心な生活の実現」となっている。

【施策に対する自由意見】

<重要度、満足度ともに高い>

1-①活力ある農林水産業の振興

- ・海もあり、山もある、そんな鹿屋が誇れるのは農林水産業だと思う。農林水産業の活力があれば、雇用も増え、商工業も盛んになるのではと思う。(40歳代)

5-①地域福祉の充実

- ・地域福祉を充実させるためには担い手がいないとサービスが崩壊してしまう。担い手の待遇をよくすることが、地域福祉の充実に繋がるのでは。(30 歳代)

<重要度が高く、満足度が低い>

1-②商工業の振興と雇用の促進

- ・企業同士の交流・雇用促進に向けての会議等を主催するなど、他市、他社との差を見つめる時間を作ることは、大きな一歩ではないか考える。(20 歳代)
- ・雇用の促進については、民間企業も含め、若年層の仕事への定着度調査などを行い、安易に外国人の労働力に頼るのではなく、市民が働ける街になってほしい。(50 歳代)

3-①こども・若者を育む環境の充実

- ・病児保育の発展に力を入れて欲しい。共働きで仕事を休めない時などある。このほか、子育て世帯の奨学金の補助をして欲しい。(20 歳代)
- ・産後ケアはとても助かったので、4ヶ月までではなく、半年にしてほしい。(30 歳代)
- ・私達が若い頃は、産科は8カ所くらいあったものですが、今はかなり減っていると聞きます。受診が遅くなると断られるとか。少子化対策を色々して頂けているのですが産科の減少というのは、それ以前の問題なのでは。とってしまいます。(50 歳代)

3-②未来を拓く教育の充実

- ・教育の面でも小中学校の受験もないためか、競争意識も低く、公立高校の学力低下も感じているため、改善を求める。(40 歳代)
- ・支援が必要な児童生徒や、不登校の児童生徒が多くなっています。早急に教育現場を支えてほしい。学校は人手が不足しています。どんな児童・生徒も楽しく学校に通えるよう、教職員の定数と働き方を善処してください。(50 歳代)

4-①快適な生活基盤づくりの推進

- ・公共機関が脆弱で車を使えるときは良いが、高齢化すると買い物や病院に通院できなくなるのが不安。(40 歳代)
- ・車社会で公共交通の利用者が少なく、維持が大変なのは理解するが、高齢で車を運転することが出来ない市民は、今後、増加の一途だと思う。DXを活用するなど、鹿屋市の規模に合った公共交通の維持方法を探して欲しい。(50 歳代)

4-②安全で安心な生活の実現

- ・空き家や空き地が増えていて近隣で困っている人もいる。指導や補助などを拡充して、今住んでいる人たちが、これからも住み続けたいと思うようにしてほしい。(40 歳代)
- ・道路における白線・黄線・横断歩道停止線が消えている所が多くあります。高齢のドライバーや観光客にとっては、安全・安心とは言えないと思います。(50 歳代)

<重要度が低く、満足度が高い>

2-①地域資源を生かした観光の推進

- ・鹿屋バラ園は素敵な場所だが、どうしても時期を選ぶものなので、他の時期に来て楽しめて、複数回来ても楽しめる場所にしてほしい。(20 歳代)

2-②スポーツによる交流の促進

- ・スポーツについては、体大もあって全国だけでなく世界にも飛躍している方々がいます。あとは、どうこれを活用し盛り上げていくか、だと思います。ちなみに、JAL は離島のアスリート教室を積極的にやっているようです。企業の発信力や社会貢献も活用されてはいかがでしょうか。(50 歳代)

4-③自然環境にやさしいまちづくりの推進

- ・3キリ運動の重要性が伝わっていない気がする。鹿屋の豊かな農地・緑地の環境を守るためということをもっと宣伝してもいいのではないかと思う。(30 歳代)

5-②健康づくり・生きがいづくりの推進

- ・体育大学もあるので、スポーツに特化したイベントに参加していきたいです。病院も巻き込んで、健康、スポーツ祭りなども楽しいと思われれます。(30 歳代)
- ・子供、子育て世代、働き世代、高齢者が生涯を通して学ぶ生涯学習の機会の充実は大切だと思います。広報などをみて様々な活動があるのだな、と思いました。(30 歳代)
- ・少しでも独居老人が元気で、寝たきりにならない様にしてほしい。(50 歳代)

5-③共生協働・コミュニティ活動の推進

- ・子供さんが県内に住んでいたら、親の様子を見に行けますが、県外だとなかなか難しいので、高齢者の声かけや見守りがあれば安心できると思います。(40 歳代)
- ・近所の高齢の方々は、お互い家を行き来して毎日お互いの様子を見たり話をしている。見守りは大切です。元気な高齢の方々の集まれる場所があると良い。(40 歳代)

<重要度、満足度ともに低い>

2-③移住・定住の推進

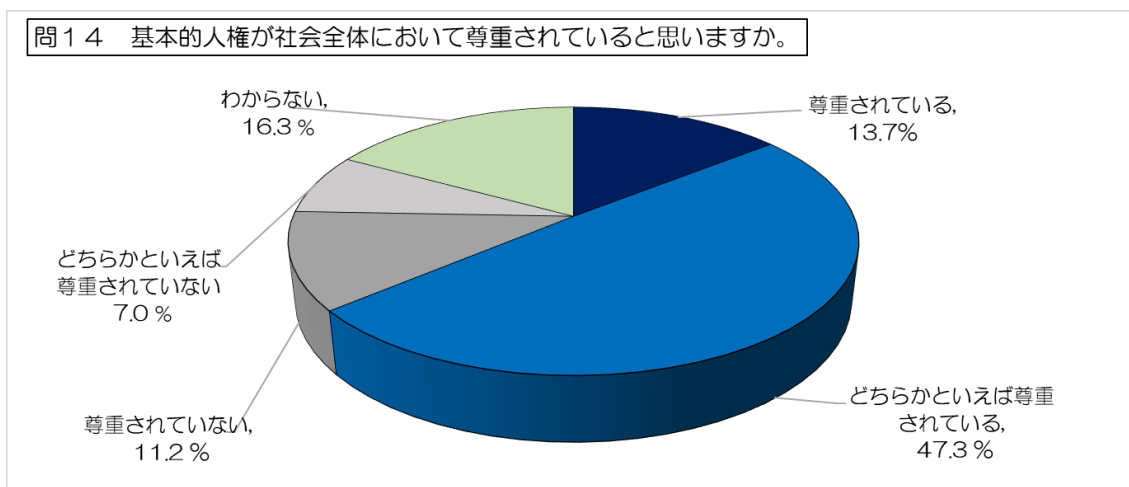
- ・移住・定住の推進については、埼玉からUターンして来ましたが、移住するハードルが高すぎると思います。子供が遊べる施設も少ないし。近場だと都城市が良い見本だと思いますよ。子供が遊べる施設や素敵な道の駅など充実しているなと感じます。(30 歳代)
- ・移住支援金、体験ツアーについて、都市部からの移住では地方のイメージと現実のギャップの差で「こんなはずではなかった」と都市部へ帰る方も多いと聞くので、体験ツアーは、よりリアルな体験が必要だと思う。(30 歳代)

※自由意見の詳細については別冊参照

5 総合計画に記載されているKPIなどについて

(1) 人権意識について

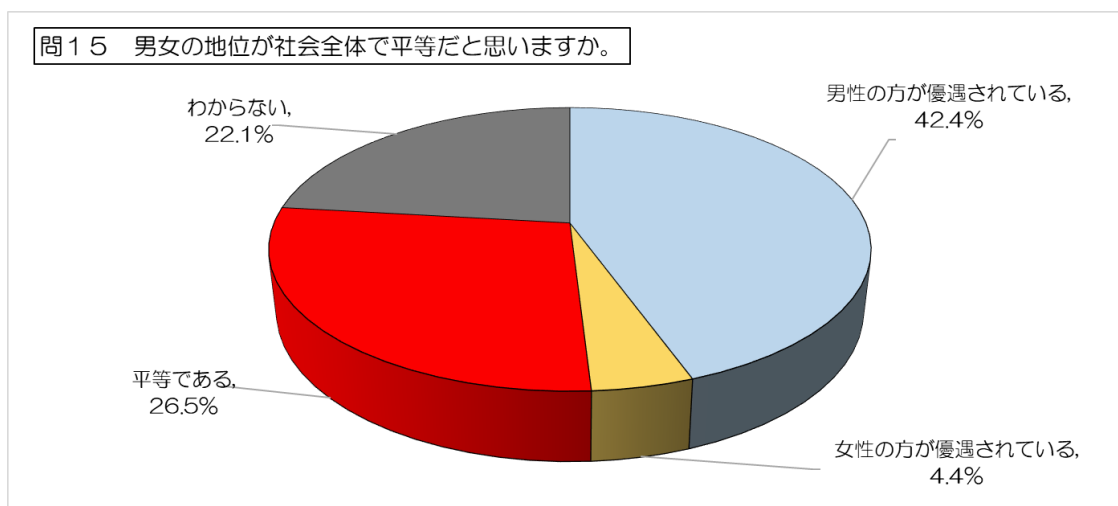
① 社会全体において「人権が尊重されている」と感じる人の割合



- ◆ 基本的人権が社会全体において、「尊重されている」「どちらかといえば尊重されている」と回答した人の割合が、61.0%であった。「尊重されていない」「どちらかといえば尊重されていない」と回答した人の割合は、18.2%であった。

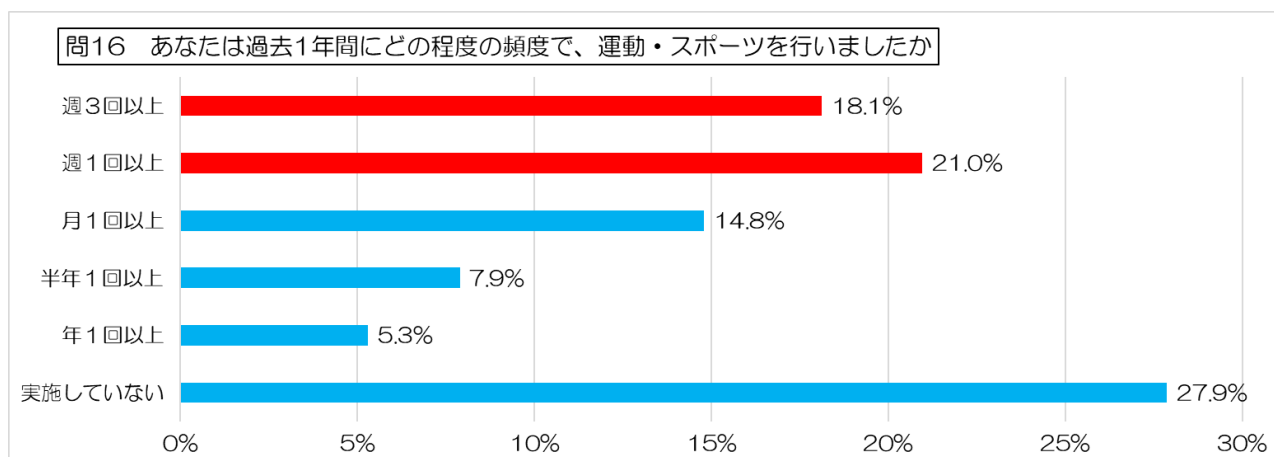
(2) 男女平等意識について

① 社会全体において男女が「平等である」と感じる人の割合



- ◆ 男女の地位が社会全体において、「平等である」と回答した人の割合が、26.5%であった。「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は42.4%、「女性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、4.4%であった。

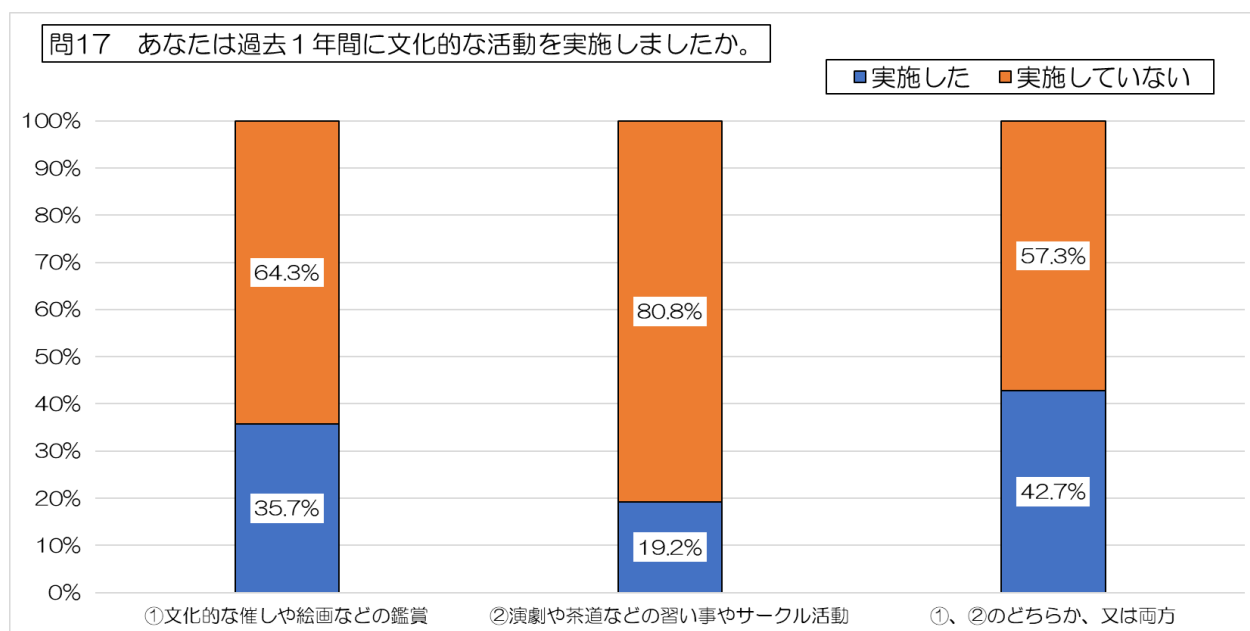
(3) スポーツ実施率



- ◆ 過去1年間に20歳以上の方が「週1回以上（3回以上を含む）」の頻度で運動・スポーツ（※）を行ったと回答した人の割合は39.1%であった。

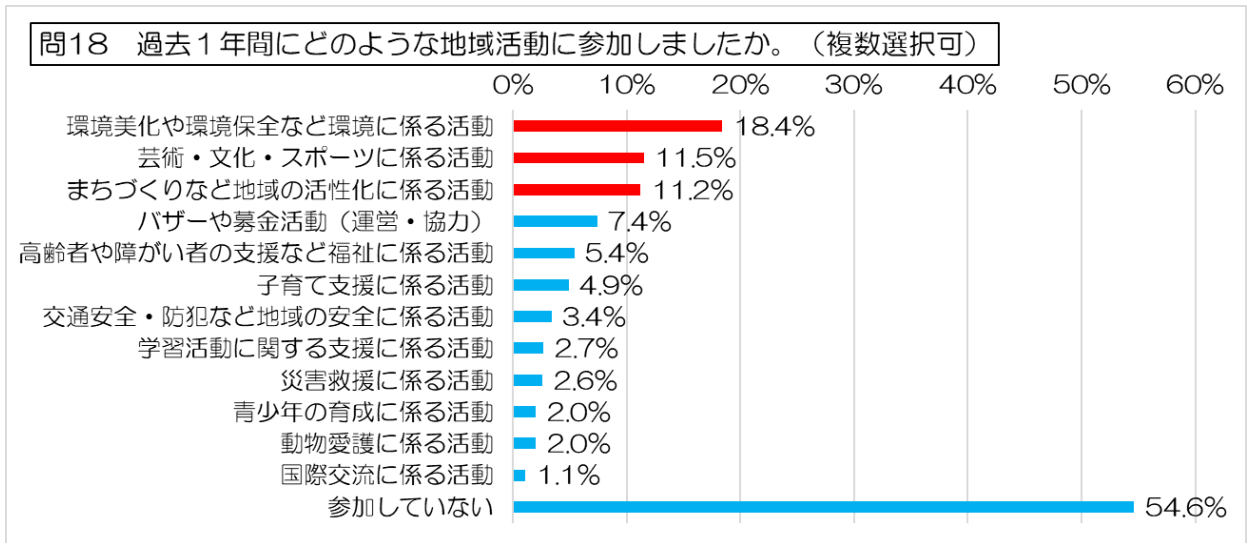
※運動・スポーツには、ウォーキングやダンス、健康体操、筋力トレーニング、縄跳び、レクリエーションスポーツ、ハイキング、サイクリング、キャンプ・釣りなども含まれます。

(4) 文化活動実施率



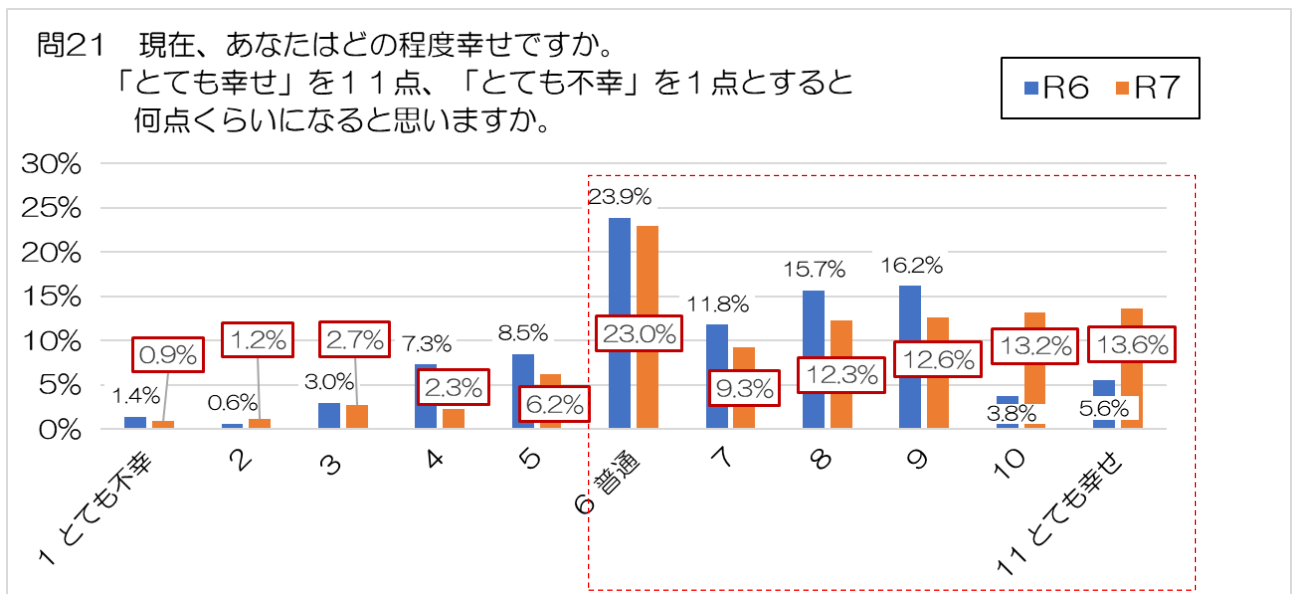
- ◆ 過去1年間に「文化的な催しや絵画などの鑑賞」を行ったと回答した人の割合は、35.7%、「演劇や茶道などの習い事やサークル活動」を行ったと回答した人の割合は、19.2%、①、②のどちらか一方を実施した、又は両方を実施したと回答した人の割合は、42.7%であった。

(5) 地域活動の参加率



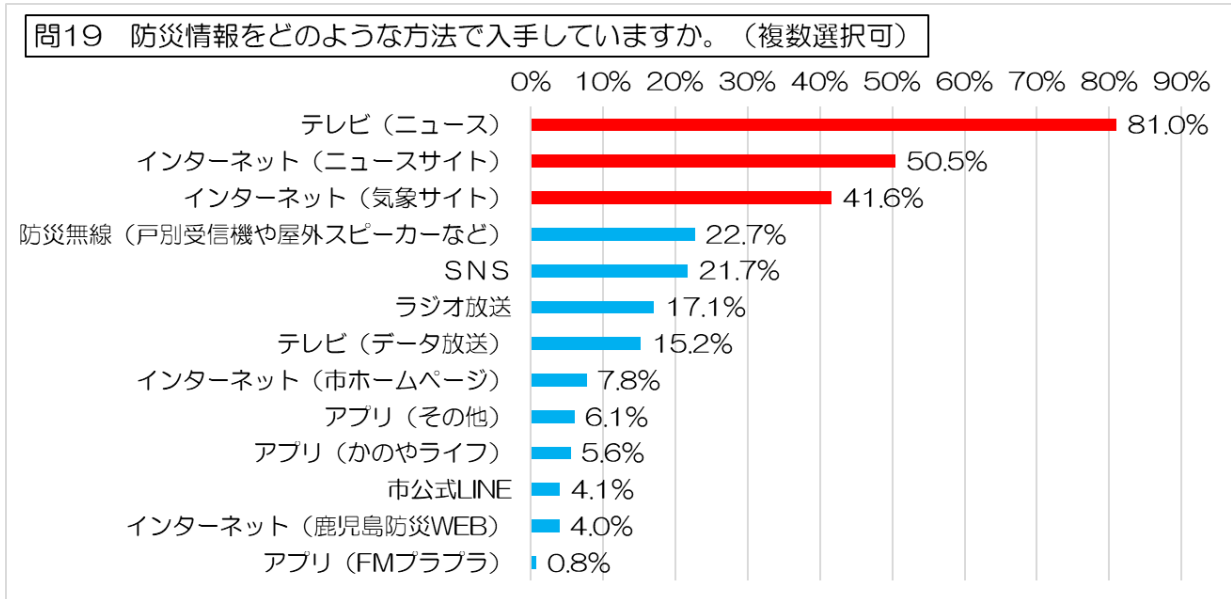
- ◆ 過去1年間に何らかの地域活動に参加した人の割合は、45.4%であった。地域活動別では、「環境に係る活動」に参加した人の割合が18.4%、「芸術・文化・スポーツに係る活動」に参加した人の割合が11.5%、「まちづくりなど地域の活性化に係る活動」に参加した方が11.2%であった。

(6) いまの生活に幸福を感じている市民の割合



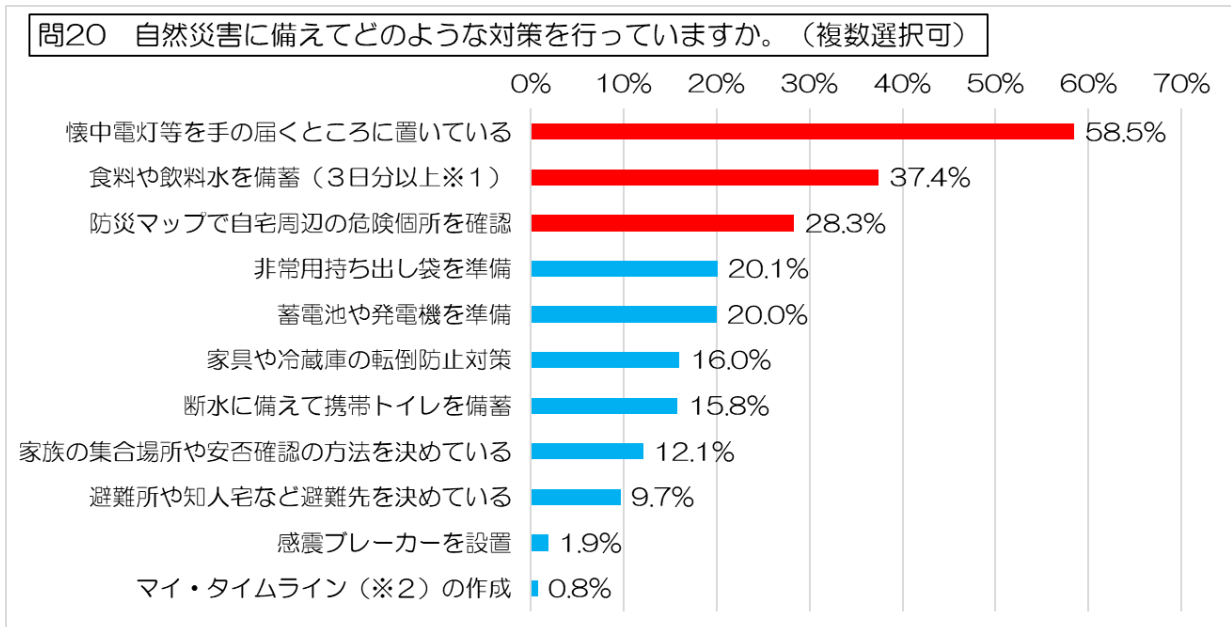
- ◆ いまの生活に幸福を感じている市民の割合について、11段階で調査したところ、普通と回答した人の割合が23.0%と最も高かったが、普通より幸せを感じている割合(7~11)のは61.0%と、前年より7.9ポイント増加している。

(7) 防災情報の入手手段



- ◆ 「テレビ（ニュース）」と回答した方の割合が、81.0%「インターネット（ニュースサイト）」と回答した人の割合が50.5%、「インターネット（気象サイト）」と回答した人の割合が41.6%であった。

(8) 自然災害への備え



※1 飲料水は1人1日当たり3リットル必要

※2 大雨や台風などの自然災害から自分の身を守るための防災行動計画

- ◆ 「懐中電灯等を手の届くところに置いている」と回答した人の割合が、58.5%、「食料や飲料水を備蓄」と回答した人の割合が37.4%、「防災マップで自宅周辺の危険個所を確認」と回答した方の割合が28.3%であった。